



すずか倶楽部 中西 大輔 議員

- 1 危機管理体制について
- 2 ※ユビキタス社会への対応について

質問1(1) 鈴鹿市の現状は。

答弁1(1) 地震や風水害などは鈴鹿市災害対策本部マニュアルを基本に運営、人的災害についてもマニュアルを準用。マニュアル以外の危機管理は、担当する部局で本部を立ち上げて対応している。

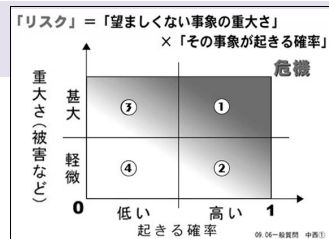
質問1(2) 危機管理室設置について。

答弁1(2) 危機は幅広く想定されるものである。今後、危機と呼ばれる範囲をいろいろ想定し、各担当が行っている危機対応を改善しながら、担当部署を置くことも含めて検討する。

※ ユビキタス＝相互に連携して機能する情報環境。

質問1(3) ※リスクコミュニケーションについて。

答弁1(3) 地域と意見を交換し合う中で、その地域に合ったルール作りを考えたい。



質問2(1) 公民館へのネット環境整備について。

答弁2(1) 利用状況を観察しつつ、地域のニーズも考慮しながら判断していきたい。

質問2(2) 文書データ化とデータベース作成。

答弁2(2) 現行の文書管理システムは数年後に新システムに移行を検討、検討の際にはデータベース作成も検討に入れる。

※ リスクコミュニケーション＝社会を取り巻くリスクに関する正確な情報を共有すること。



緑風会 小島 巧也 議員

- 1 人事行政について
 - (1) 人材育成基本方針について
 - (2) 職員年齢構成による問題点
- 2 交通事故対策について

質問1(1) 平成18年に人材育成基本方針が策定され、その中で今後の人事制度として、能力や実績を重視した制度を含め8項目が掲げられたが進捗状況は。

答弁1(1) 試行や検討段階のものもあるが、地方公務員法の改正や職員の気質の変化もあり、職員の意見も聞きながら実効性の高い制度を導入していきたい。

質問1(2) 年功序列を基本とした制度により、一般職員の25%以上が管理職となっており相応の役職につくことが出来ない。適正な業務が与えられているのか。また、

このような状況はいつまでつづくのか。

答弁1(2) 対応として、課長に相応する職務を与えている。このような状況は5年後から退職者がピークとなり管理職は減少していく。

質問2 5月末現在ですでに9名の方が交通事故で亡くなっている。非常事態と捉え対策を強化してほしい。対策の1つとして高齢者宅への自宅訪問など出来ないか。

答弁2 非常事態と認識し対策を実施している。高齢者への対応として、安全教室や実践型の研修会を開催しているが、自宅訪問は難しい。



無所属クラブ 板倉 操 議員

- 1 市民の暮らしは良くなっていない
 - (1) この間の緊急対策の評価と課題は
 - (2) 求職者総合支援センターについて
- 2 男女共同参画行政の推進について

質問1(1) 派遣切りや雇い止めで住む所もなく投げ出された勤労市民や中小企業の窮状に対し、市としてこの3ヶ月間雇用対策、経済対策に取り組んで来たが雇用情勢は県下で一番悪い。国の予算も大企業支援が多く雇用創出は考えられてない。輸出産業に頼るだけでなく、内需型への産業転換や第一次産業の中に雇用創出を生み出すための政策を考えるべきではないか。

答弁1(1) それが課題だと考えている。内需型の産業

集積を図る計画に着手し、企業立地を図る環境整備も進める。第一次産業は課題の整理が必要だ。

質問1(2) 県が設置するものだが市民の実績に即した生活、求職相談を細やかにできる場である。市として密に連携することが重要であるが考えはどうか。

答弁1(2) 充分承知している。市の隣接地のNTTの建物に設置される。連携は重要と考えている。

質問2 「仕事も家庭も喜びも男女が共にわかち合う」男女共同参画社会の実現は市の重要課題であるのに、男女共同参画課がその中心を担っていない。責任は政策幹部会議にも有り、男女共同参画審議会の提言もふまえて参画プラン改訂も含め市全体で取り組むべきだ。

答弁2 審議会の提言を受け職員の意識改革を促す研修や男女共同参画プラン見直しの意識調査などを実施していく。